

## 8. クールゾーンの設定による「風の道」の見える化

「風の道」ビジョンに位置付ける施策は、行政だけで進められるものではなく、市民や企業の実践が重要である。施策をスムーズに推進し、風に配慮したまちづくりを進めていくには、市民や企業の「風の道」に対する認知度を向上させ、理解を得ていく必要がある。

このため、風の流れる河川や道路に沿って、クールゾーンを設定し、風を活かした快適環境を市民に体感してもらうことで、風に配慮したまちづくりの機運を醸成する。

### 【クールゾーン設定の考え方】

下記の視点等を踏まえて、クールゾーンづくりを進める箇所を選定する。

- ・ 風の流れの状況
- ・ 周辺の施設整備や再開発等の状況
- ・ 市民、企業のまちづくりに関する活動状況

### 【クールゾーンでの取り組み】

- ・ 梅田、中之島、本町、心斎橋（長堀通）、道頓堀、天王寺の6地区でクールゾーンを設定し、快適性を向上させる各種施策を先行的に実施することで、市民、企業が効果を体感できる場を設けて、「風の道」を見える化する。
- ・ クールゾーンにおいては、行政による公共空間での取り組みを実施するほか、市民や企業の率先的な取り組みを促進し、涼しい空間を創出する。

### 【実施を検討する主な施策】

- ・ 緑化の推進
- ・ 道路や建物等からの放熱の抑制（保水性舗装、遮熱性舗装、日陰の創出、木材利用など）
- ・ 水の活用（ドライ型ミスト散布、大規模ミスト散布、道路散水）
- ・ 市民、企業の取り組み（緑のカーテン・カーペット、打ち水など）促進

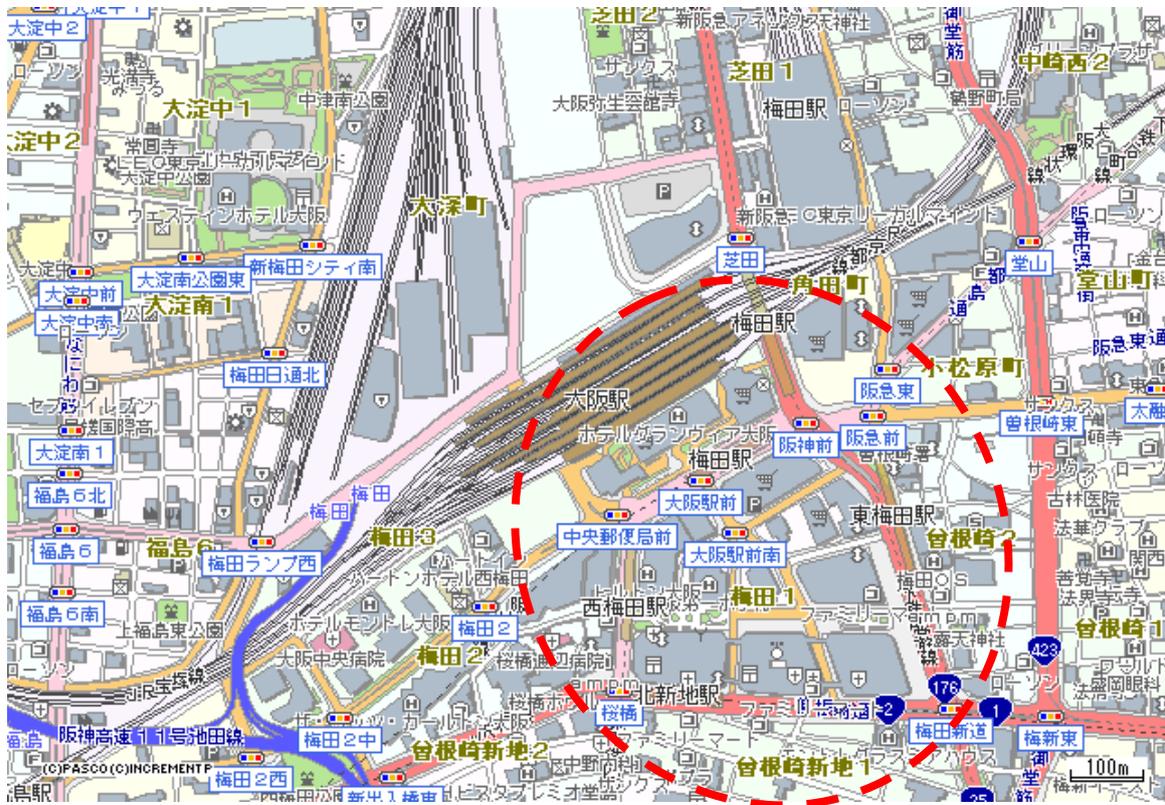
### 【平成 23 年度の取り組み】

- ・ 「風の道」ビジョンの特色、方向性を踏まえ、集中的、積極的に施策を実施
- ・ クールゾーンの将来設計



### 【各クールゾーンについて】

#### ○梅田周辺のクールゾーン



#### 〔地域の特徴〕

- ・ JRの鉄道数や大阪駅南側のオープンスペース（道路）、国道2号に海風が流れている。
- ・ うめきた（大阪駅北地区）、大阪駅など、公民連携の新しいまちづくりが進んでいる。

#### 〔クールゾーンづくりの方向性〕

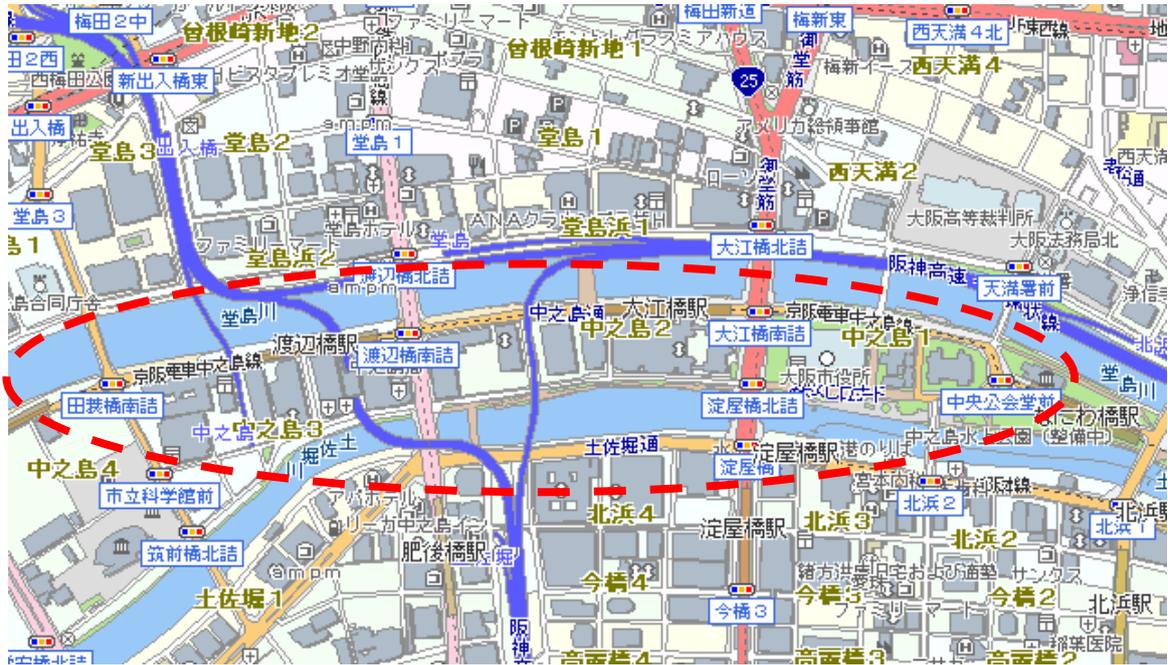
- ・ 大阪の北の玄関にふさわしいターミナル周辺での快適空間づくりを進める。



商業施設でのドライ型ミスト散布

(  はクールゾーンの概ねの範囲を示す)

### ○中之島周辺のクールゾーン



#### 〔地域の特徴〕

- ・海風が流れる堂島川、土佐堀川に囲まれている。
- ・御堂筋の東側には市役所をはじめ、中央公会堂や中之島公園など公的な施設があり、西側は中之島3丁目共同開発など、新しいまちづくりが進んでいる。

#### 〔クールゾーンづくりの方向性〕

- ・水都大阪のシンボルである河川を活かした快適空間づくりを進める。

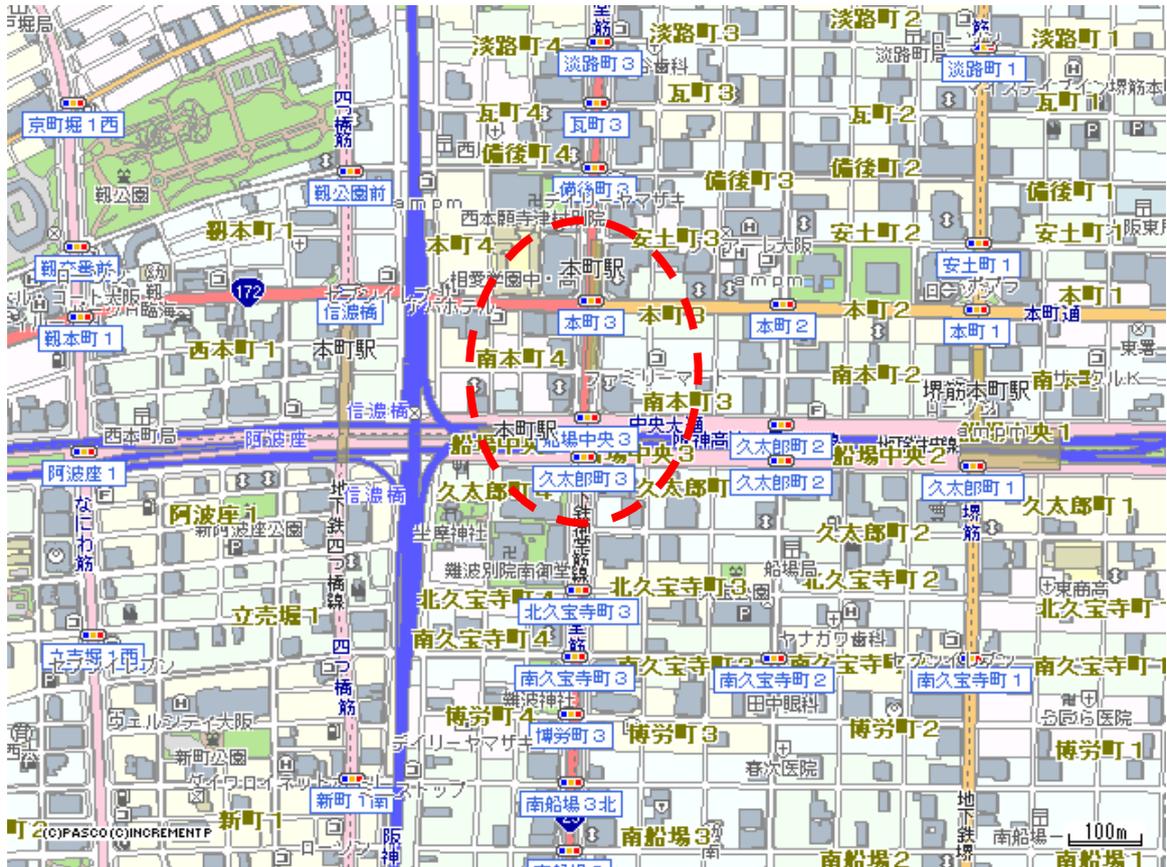


河川水の利用



市役所での緑のカーテン

### ○本町周辺のクールゾーン



#### 〔地域の特徴〕

- ・本町通と中央大通の2本の道路に沿って、風が流れる地区。
- ・大阪のシンボルである御堂筋を中心に、企業の本社機能が集積している。

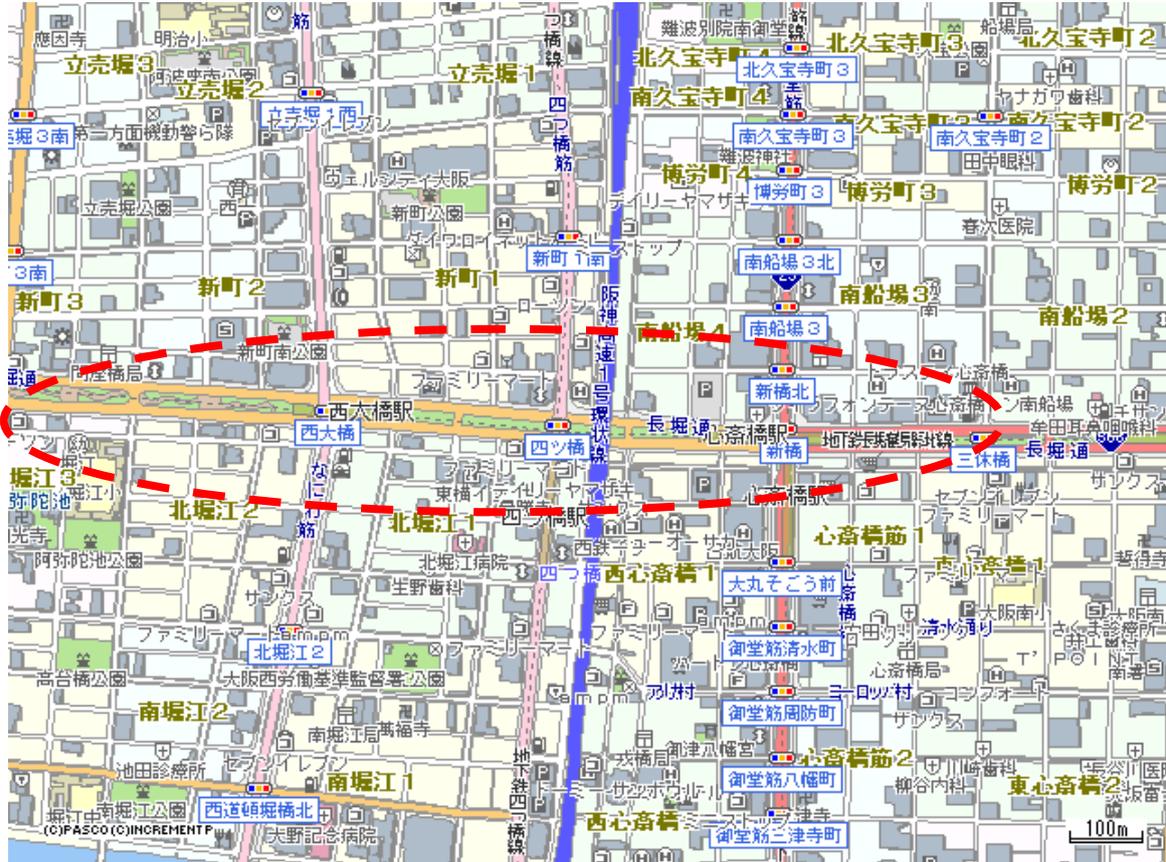
#### 〔クールゾーンづくりの方向性〕

- ・東西道路に沿って風が通るオフィス街での快適空間づくりを進める。



大規模ミスト散布(イメージ)

### ○心斎橋周辺（長堀通）のクールゾーン



#### 【地域の特徴】

- ・「風の道」モデル事業を実施した広幅員道路で、海風が吹く地区。
- ・御堂筋との交差点には世界のトップブランド直営店が軒を連ねている。

#### 【クールゾーンづくりの方向性】

- ・長堀通に吹く風を活かした、多くの人で賑わう地区での快適空間づくりを進める。

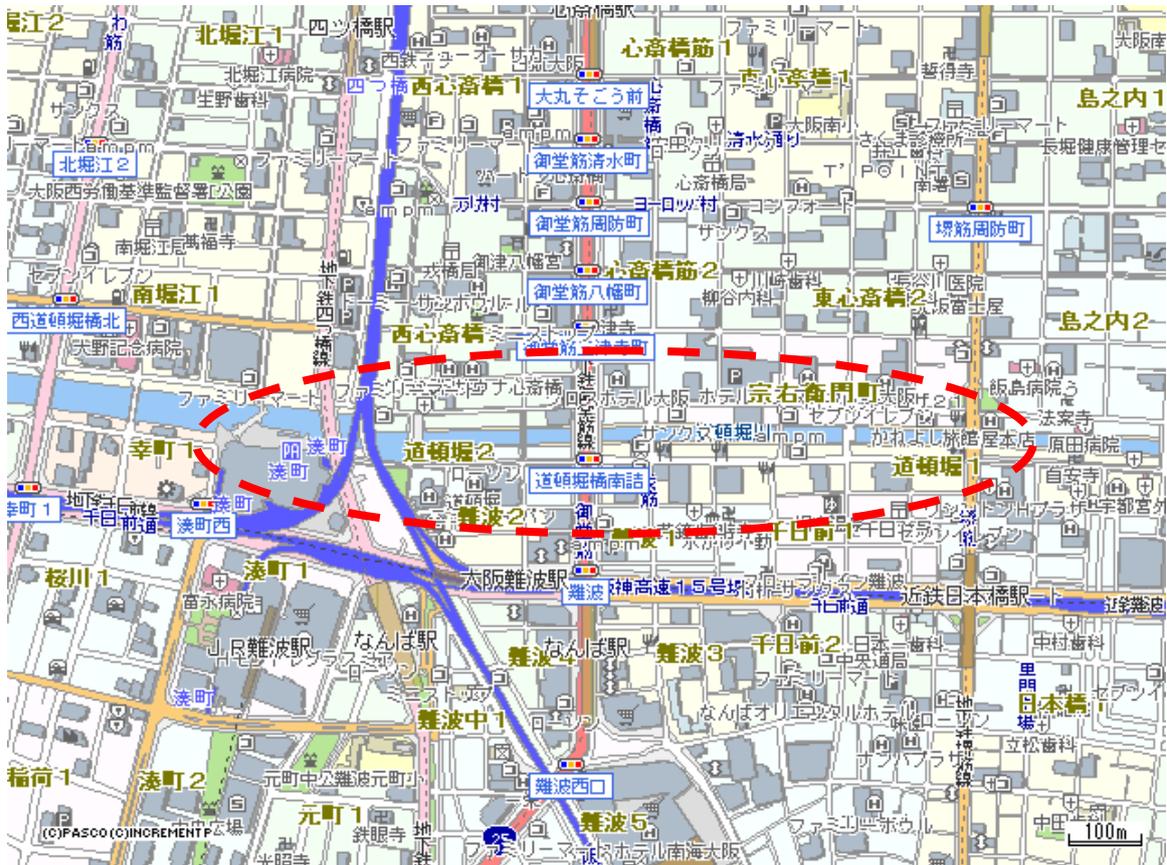


路面散水設備（イメージ）



大阪木材会館

### ○道頓堀周辺のクールゾーン



#### 〔地域の特徴〕

- ・ 河川が「風の道」を形成しているゾーン。
- ・ 河川沿いに、親水性の高い憩いの空間として遊歩道整備が進められている。

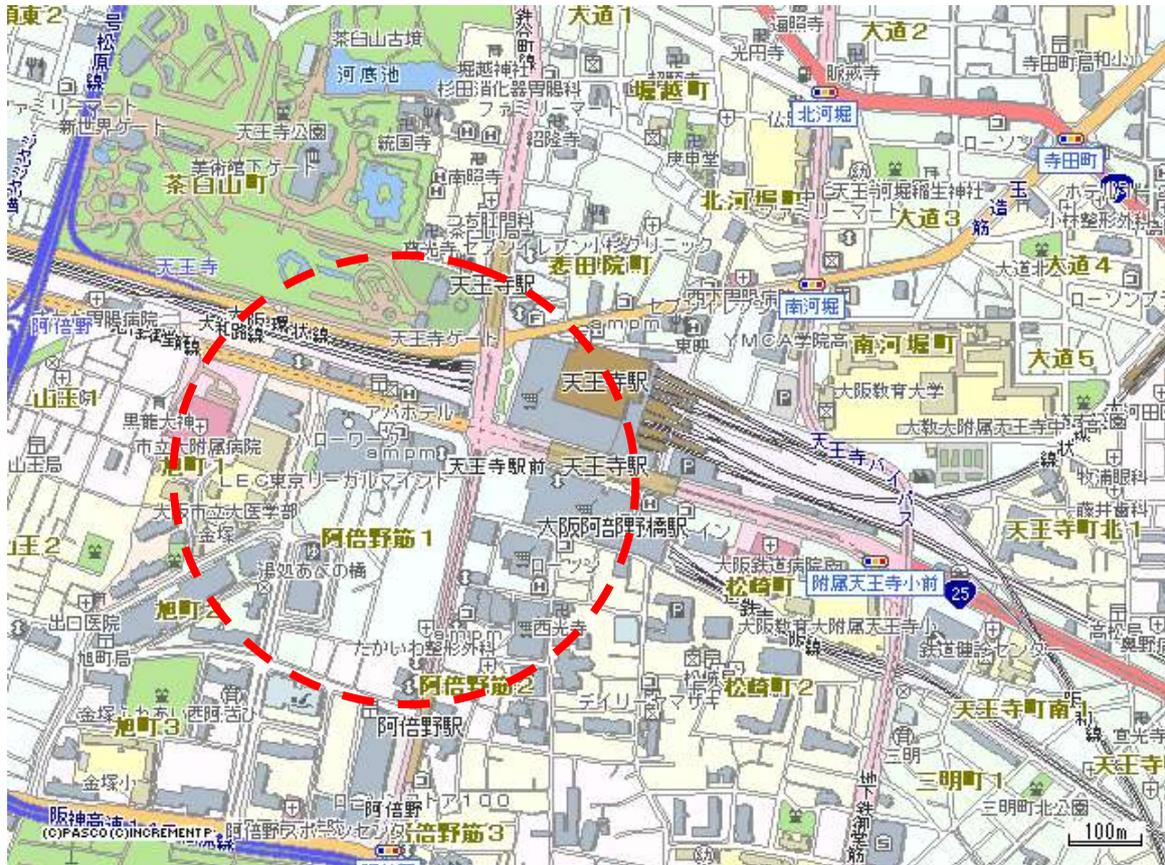
#### 〔クールゾーンづくりの方向性〕

- ・ 河川沿いに整備された遊歩道を活かした、風を感じる快適空間づくりを進める。



とんぼりリバーウォーク

### ○天王寺周辺のクールゾーン



#### 〔地域の特徴〕

- ・北側にJR天王寺駅や天王寺公園があり、風が流れる広大なオープンスペースがある。
- ・阿倍野再開発事業などが進められている。

#### 〔クールゾーンづくりの方向性〕

- ・大阪の南の玄関にふさわしいターミナル周辺での快適空間づくりを進める。



天王寺公園(茶臼山)

## 9. 施策の効果的な推進

### 1) 推進体制

「風の道」ビジョンの推進においては、全般的なヒートアイランド対策や地球温暖化対策などの関連諸施策との連携が重要である。大阪市ではこれまで、「大阪市ヒートアイランド推進計画」に基づき、関係各局の緊密な連携のもと、ヒートアイランド現象の緩和に向けた各種取組みを推進してきたところである。

今後、「風の道」ビジョンに基づいた施策を全庁的かつ着実に推進するため、「環境未来創造推進本部（仮称）」のもとプロジェクトを設けて、取組み状況に関する情報の共有化、推進状況の把握、検証を行うなど、より効果的・効率的な施策の実施、各局間の連携を図る。

### 2) 調査研究

ヒートアイランド現象は、長年にわたって進んできた都市化に伴い、様々な要因が複雑に影響しあって発生しており、その実態や発生メカニズムに関する科学的知見は、依然として十分でない。それぞれの要因の寄与度が把握されておらず、対策の総合的な評価手法が確立されていない。また、個々の対策技術についても、その効果についての評価が明確になっていないものは少ない。

このため、次に示す調査、研究等をさらに充実させ、施策の効果的・効率的な推進を図る。

- ・ 路面散水設備の実証実験を行う。
- ・ 各種施策についての実証実験、及びその効果の把握を行う。
- ・ ヒートアイランド現象の実態把握のための環境調査を継続して実施する。
- ・ 研究成果や技術開発動向など、最新の知見の収集に努める。
- ・ 規制・誘導手法の研究を進める。

## おわりに

「風の道」においては、風を暖めない施策を推進することで、海風が本来持つ気温の低減効果を最大限発揮させることとなり、ヒートアイランド現象の緩和に大きな期待ができる。

しかしながら、市域におよぶ広い範囲で十分な効果を生み出すためには、市域全体でヒートアイランド対策や風に配慮したまちづくりを推進、実践する必要がある。

また、「風の道」に関する取り組みについては、ヒートアイランド現象の緩和に対する市民や企業の意識向上を図るとともに一体となった取り組みを行うことが重要である。

今後、本基本方針やクールゾーンにおける具体的な取組み、路面散水設備の実証実験などを踏まえ、クールゾーンの将来設計や行動計画を示すものとする。